



第 20 回日本心血管インターベンション治療学会(CVIT2011)へ参加

7月21日～23日に行われた、学会で当院から3題の発表を行ってきました。

【メディカル ポスター】

心臓血管センター 小山豊センター長

“眼科術前心電図スクリーニングによる冠動脈及び末梢動脈疾患の検出”

【コメディカル 口演】

看護部 平松智子副看護部長

“上肢アプローチにおける心臓血管カテーテル検査・治療時の
安楽を目的とした膝枕使用の効果”

臨床工学技士 和田 明科長

“Self-expandable Stent 留置後の時間経過によるステント長の変化の検討”

心臓血管センターに関わる、3名が日頃の診療・看護の現場で行ってきた成果を発表してきました。小山医師は、今年1月から取り組んでいる、“眼は心”の後ろ向き研究の発表を行い、前向きに“i-heart rjstory”を行っていることを発表し、平松副部長は、冷たい・堅い台の上に寝なくてはいけない患者の立場から安楽を追求した研究を発表しました。和田課長は、慢性期のステント長の変化している症例を経験したことから、実験モデルを用いた検証を発表しました。

応援している方がドキドキしましたが、質問にも“しっかり”適切に対応でき、素晴らしい発表でした。

応援に行ったスタッフの中には、他病院の発表を聞くことで、自院も負けてはいないことを実感したり、“来年は、自分があの壇上に！！！！”と刺激をうけていたものもありました。

今回多くのことを学べました。是非、皆にフィードバックしてほしいと思います。

(中村さつき)